令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【木崎小】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)メタ認知能力：自分の学びを客観的に捉え、次に繋げる「質の高い振り返り」をする資質・能力。 (2)協働的解決力：他者との対話を通じて、試行錯誤しながら最適な解決策を導き出す資質・能力。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	単なる意見交換ではなく、他者と関わる必然性のある課題設定を行う。友達の意見によって自分の考えが変わったことを「学びの深まり」として教師が積極的に称賛し、共有する。【毎単元・1課題】 単なる感想（「楽しかった」等）ではなく、「何ができるようになったか（成果）」「何がまだ不十分か（課題）」「次はどう取り組むか（次への見通し）」を記述させる。児童が書いた振り返りに対し、教師がクラウド（Google Classroom等）やコメントを通じて即時的・継続的にフィードバックを行い、児童が自分の成長を実感できるようにする。【通年・毎単元】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・全国学力・学習状況調査の結果では、国語、算数ともに県平均及び全国平均を上回り、学習内容の定着が見られた。一方で、両教科とも記述式問題の正答率は低い傾向にあった。また、算数では「数と計算」「図形」「データの活用」など複数の領域を関連付けて考える問題において、全国平均と同程度の正答率であった。基礎的な知識・技能は身に付いているものの、それらを活用して考えたり表現したりする問題には課題が見られた。 ・児童質問紙では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対し、9割を超える児童が肯定的に回答した。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・記述式問題の正答率が低いことから、自分の考えや根拠を文章で整理し、相手に分かりやすく表現する力には課題が見られる。また、算数において複数の領域を関連付けて考える問題の正答率が全国平均と同程度であったことから、身に付けた知識や技能を活用し、課題解決につなげる力については伸びしろがあると考えられる。 ・学級での話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできていると回答した児童が9割を超えており、他者と協働しながら学ぶ意識は高いことがうかがえる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	児童は協働的な学習に対して肯定的な意識をもっている。一方で、記述式問題や複数の領域を関連付けて考える問題には課題が見られ、話し合い活動が意見交換にとどまり、考えを深めたり再構築したりする学習経験は十分ではないと考えられる。また、振り返りへのフィードバックは行っているものの、自らの学びを客観的に整理し、表現する力の向上が求められる。 そこで、既習事項を関連付けながら解決方法を考える課題や、複数の考え方を比較・検討する課題を設定し、他者と関わる必然性のある学習場面を充実させる。また、話し合いを通して考えが深まったり変容したりした過程を価値付けるとともに、振り返りでは学習の成果・課題・次への見通しを記述させる。さらに、教師が意図的にフィードバックを行うことで、自らの学びを客観的に整理し、言葉で表現する力や学んだことを活用する力の向上を図る。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）